

# 進んで他者と交流を重ね、自分の考えを広げ深めようとする児童の育成

～まとめる過程におけるサブテーマの設定と相手の考えを受け取ることを意識した交流活動を通して～

実践事例：社会科 小学6年「戦国の世から天下統一へ」

特別研修員 社会 安達 学（小学校教諭）



他者の考えを取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる児童が少ない。

他者との交流を通して、考えを広げたり深めたり、新たな気付きに出会ったりしてほしい。



児童の実態

教師の願い

学習活動の過程

## 手立て1 まとめる過程における「サブテーマの設定」

児童が学習したことを基に、さらに考えたいことをサブテーマとして設定することで、主体的に活動に取り組むことができる。

まとめる過程において生まれた新たな疑問から、サブテーマを設定する。

自分の考えを説明するために、考えの根拠となる資料を選ぶ。



信長と秀吉、結局どちらの方が天下統一に貢献したのだろう。

サブテーマ

「信長と秀吉、天下統一により貢献したのはどちらだろう」



私は信長だな。考えの根拠は、この資料を使えば説明できそうだな。他の人はどう考えているのかな。



## 手立て2 「相手の考えを受け取ることを意識」した交流活動

交流する際に「なぜ」「たしかに」「でもさ」などのキーワードを使い、相手の考えを受け取る意識をもたせることで、自分の考えとの違いに気付かせることができる。

サブテーマについて考えた意見を伝え合う。

相手の考えを聴いて、サブテーマについても一度、自分の考えを構築する。

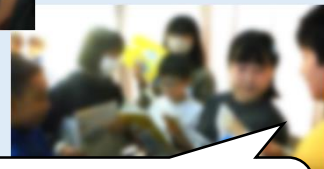


でもさ、秀吉の行った兵農分離は、世の中を安定させるためにとても重要だったと思うよ。

やっぱり鉄砲を戦に使い始めたのは天下統一に向けて大きく貢献したと思ったんだよ。



ぼくも信長なんだけど、理由が少し違うな。なぜそんなふうに考えたの。



たしかに。みんなの考えをまとめると、どちらか一人がいなかったら天下統一することは難しかったと考えられるね。

【目指す児童像】

## 進んで他者と交流を重ね、自分の考えを広げ深めようとする児童

成果

- 自分たちの中から新たに生まれた疑問を基にサブテーマを設定したことで、積極的に他者と関わり、解決しようとする姿が見られた。
- 自分の考えの根拠となる資料を選び、それを基に交流することで説得力のある対話ができたと。
- 相手の考えを受け取ることを意識しながら交流させたことで、ただの意見交流で終わるのではなく、自分の考えと比較・関連付け、お互いの考えを広げ合ったり、深め合ったりすることができた。

課題

- 設定した話合いの時間を、同じ相手と続けてしまうことがあった。時間で区切り、交流する相手を替えることで、より多くの考えに触れることができると考える。